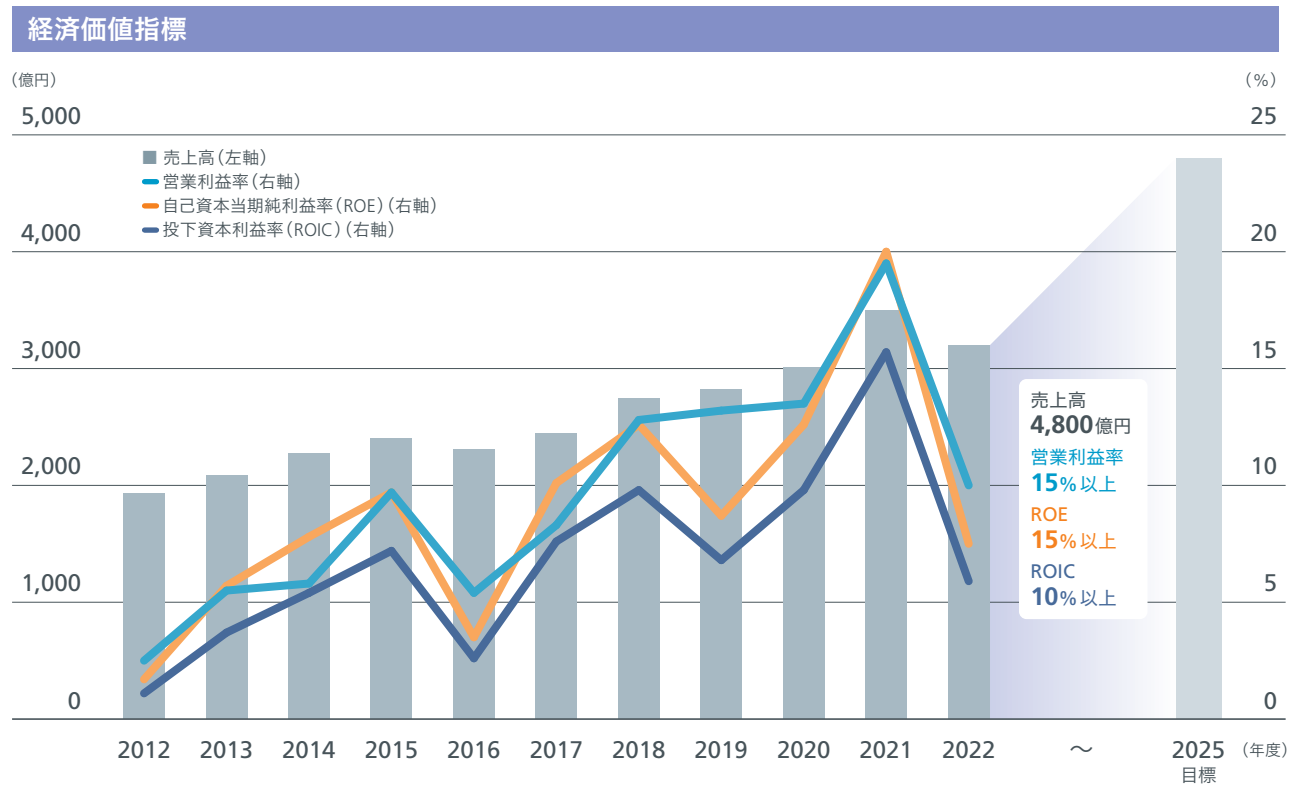


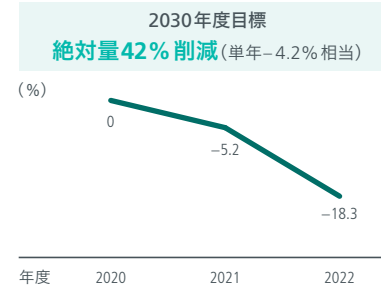
中期経営計画2025（2021～2025年度）

経営指標の推移と目標

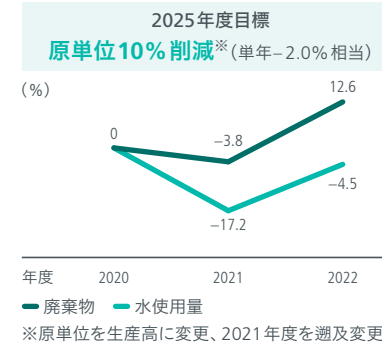


社会価値指標

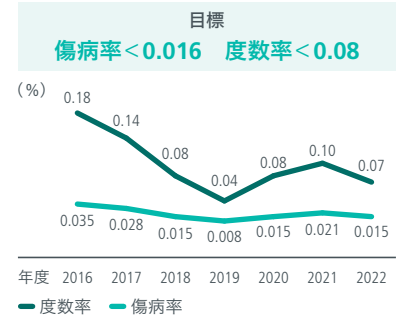
GHG排出量



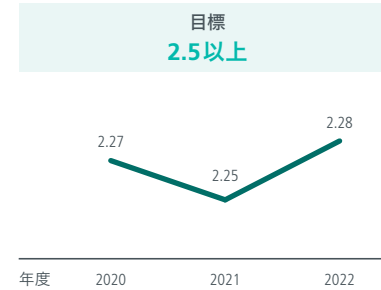
廃棄物・水使用量



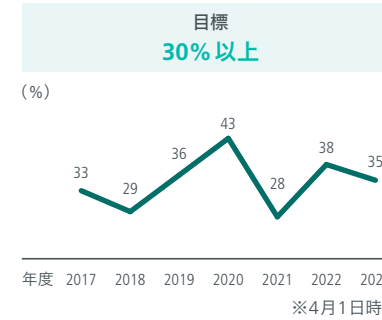
傷病率・度数率



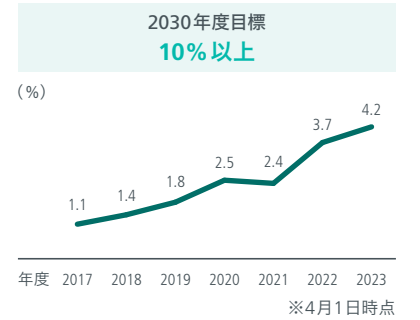
ワークエンゲージメント



新卒女性採用率※



女性管理職比率※



中期経営計画2025の進捗と課題

中期経営計画2025(2021年度～2025年度)では、安定的な成長が見込める自動車市場、情報インフラ・産業機器市場を「注力すべき市場」と定義し、この市場を中心に売上伸長を図りつつ、経済価値と社会価値を両輪とした企業価値向上を目指しています。

経済価値においては、売上高、営業利益率、ROE、ROICを経営指標に設定。社会価値においては、GHG排出量、廃棄物、水使用量、職場の安全、ダイバーシティなどに関連した経営指標を設定しました。また、計画初年度の2021年度から5年間で3,000億円の設備投資計画を進めています。自動車向けを中心とする将来の需要拡大に備えた生産能力増強と同時に、環境対策・IT整備に向けた設備投資も積極化しています。

2021年度は好調な市場環境を背景に、営業利益率、ROE、ROICの3つの経営指標が最終目標を超過したのに対して、2022年度は電子部品の需要環境が一転し、各経営指標が悪化しました。2023年度は市場環境が緩やかに回復に向かうと想定しており、引き続き中期経営計画2025最

終年度の目標達成に向けて事業活動を行っていきます。

2022年度の「注力すべき市場」の売上構成比は、自動車市場での需要拡大やその他の市場での需要減速の結果、52%となりました。今後も各市場の需要動向により売上構成比は変化すると思われますが、当社の強みを発揮できる市場でバランスよく事業を展開していきます。

また、社会価値に関する経営指標のうち、傷病率・度数率と新卒女性採用率は目標を達成しました。今後も継続的な達成を目指します。その他の指標については、廃棄物、水使用量が前年度から悪化した一方、GHG排出量とワークエンゲージメント、女性管理職比率は改善しました。引き続き目標達成に向けて取り組んでいきます。GHG排出量に関しては、COP26(第26回気候変動枠組条約締約国会議)における1.5℃目標合意を受け、2022年度に当社の目標も上方修正し、取り組みを強化しています。GHG排出量削減への取り組みとして、2023年3月に竣工した八幡原工場材料棟は大幅な省エネルギー化を実現し、「ZEB Ready」認証を取得することができました。

